



木の家だいすきの会 通信

2018年4月発行

特定非営利活動法人 木の家だいすきの会
E-Mail: office@kinoie.org
URL: http://www.kinoie.org
facebook:
http://www.facebook.com/NPO.KinoieDaisuki

■東京事務所 & 木の家づくりの相談室
〒102-0081 東京都千代田区四番町3-10 番町 MK ビル 301
TEL 03-6261-2970 / FAX 03-6261-2971
■所沢事務所
TEL 04-2937-7344

メンテナンスフリーに注意

メンテナンスに費用がかからないことを売りにしている工業製品があります。「やっぱり、メンテナンスフリーがいいね」と言われると、「もちろん」と疑問を抱かずに同意してしまいそうです。修理しても新品に買い替えてもたいして値段はかわらないなんてことも、よくあります。この二つのことは一見関係ないように見えて、同じ根っこがあります。つまり、「スクラップ&ビルド」の発想です。世の中の仕組み自体がスクラップ&ビルト型になってしまっているのです。

住まいづくりにおいて消費者が重視している点は何かというアンケート調査で、最近が続けて「耐久性」が首位を占めています。やはり、経済的に一生に2軒も建てられる人は稀なので、大事に使いたいというのが多くの人の率直な考えでしょう。

建物全体の耐久性を高めるためには、多少高くても建築時に高性能な屋根葺き材や外壁材を選ぶことが重要ですが、これだけではなく、適切なメンテナンスをすることがそれ以上に大切になります。住宅で最も怖いのはシロアリや木材の腐朽による劣化です。目視ではわかりにくい雨漏りをほっておくと、やがて腐ったり、カビが発生したり、シロアリを呼び込むこととなります。こうしたことを防ぐためには、定期的な点検と早期の予防的な補修が大事です。マンションでは修繕積立金の仕組みが整っているところが増えてきましたが、耐久性を求めるのであれば戸建住宅にも修繕積立金の準備をしておきたいものです。

見学会などのお知らせ

2018年4月28日(土) 完成見学会 呼吸する木の家 @埼玉県所沢市
2018年5月13日(日) 築4年の住まう木の家見学会 @練馬区練馬区

木の家だいすきの会
代表 鈴木 進



外壁の亀裂をほっておくと雨が内部に浸透します



長年の雨漏りが壁の下地を腐朽させています

コラム：窓から考える家づくり ～ 地窓について ～

窓については、断熱・気密・複層・Low-Eといった各種性能、この数年の間でとても高い関心のある要素であると感じております。すべてを取り上げることは難しいため、窓をどのように計画・プランニングしているのか？についてご紹介できればと思います。

土地の個性、住宅密集度にもよりますが、採光を十分期待したい窓とそれが難しい窓、多くの計画地で共通するものだと思います。その条件の中で、採光を期待できる場所の窓、勝手口やウッドデッキに出入りできる窓(ドア)、通風を期待するための窓、そこに防犯性を高めるためにガラスの種類や付け格子によって配慮する方法、開け方・開き方、形状(四角・縦長・横長等)、網戸・雨戸・シャッター・軒庇の有無、防火性など、複数の選択肢を想像しながら間取りを見つめる時間はとても重要な設計のひとつです。

そこで今回は、地窓について取り上げたいと思います。慣例的には北側和室の床に接する涼風を期待した窓を地窓と呼びますが、北側でなくてもご提案することがございます。

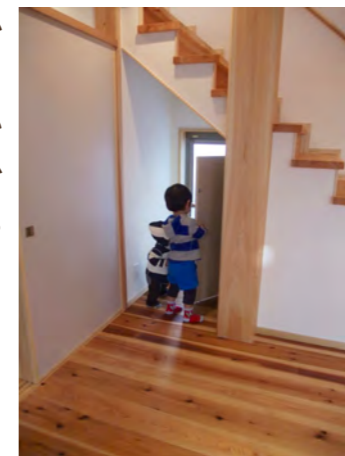
■ 大きな地窓

南西角の前面道路に面した地窓。外部の視線に注意がいるケース。外を歩く人の目線は気になるものです。そうだからといって窓はほしい。目線を遮りつつ、採光と通風の期待ができ、かつ、植栽も楽しめる地窓。



■ ストーリーのある地窓

階段下を利用した通風を期待した窓。地面と高さがある窓のため、転落防止に柵を付けました。お父さんの帰りを待つ子供たち。窓の向こうは駐車スペースのため、テールランプの灯りがその帰宅を知らせてくれる。窓を開け、子供たちからのお帰りの声。泣けます(笑)。リアルな決定的瞬間の写真はないのですが、そんなストーリーを少し想像できると、窓の持つ意味もさらに増えますね。



Den設計室
新田 浩司

